

## 磐田市文化施設等のあり方に関する検討委員会（第2回）議事録

平成26年8月5日13:30～

磐田市役所本庁舎 大会議室

### 出席者

委員：青島美子、小栗 華、小野泰弘、三枝幸文、杉田友司、鈴木正典、  
高木昭三、鳥居 勤、永井聡子、橋本安弘、村上勇夫  
事務局：企画部長、市民部長、秘書政策課長、  
文化振興課、文化・体育施設等整備室

- 1 前回会議の確認（質問への回答）・・・文化振興課長、文化・体育施設等整備室長
- 2 磐田市財政・公共施設の現状、将来予測について・・・文化・体育施設等整備室長
- 3 文化施設について・・・文化・体育施設等整備室長

### 4 意見交換

（委員）

冒頭に確認したいのだが、第1回の議事録についてホームページで公開されているのは個人の名前が出ておらず、委員ということで出ていたが、2回目、3回目も、意見公開をする際に、発言者を特定されないような形での非公開というように聞いた記憶もある。発言については、今までと同じ扱いと考えてよろしいか。

（企画部長）

数値等が独り歩きしないように、また、この2回目、3回目でできるだけ委員の皆さんに忌憚のない具体的な意見をいろいろいただきたいと考え、非公開としている。議事内容については、委員名は伏せて公開するというふうに考えている。

（委員）

そういうことは、要するに1回目もホームページ上の公開は委員名を伏せているので、4回とも同じように続けるという考えでよろしいか。

（企画部長）

そのようにご理解いただきたい。

（委員）

磐田市と同じくらいの人口規模の行政区にある同じような規模の施設の利用状況は、市民文化会館と比べ差があるのか。比較できる資料はあるか。

（文化振興課長）

利用状況、利用率等は、市ごとの方針も違うと考えているので、具体的数字は持ち合わせていない。県内で、1,500人規模の会館は、西部は浜松と磐田、中部は静岡に2か所、東部に2か所と合計6か所。1,500人以上の規模のホールは持っていても、やはり、自治体ごとに管理運営方針がそれぞれ違うと考えている。全体の利用率については、先

ほど言ったように7割8割の利用があるので、決して少なくはないと感じている。

(委員)

文化施設関係の磐田市が目指す方向性の重点政策はいつ決めたのか。今後もこの方針は生きていくものだと思うから、この委員会としても議論の中心軸になると受け止めてよいのか。

(文化振興課長)

目指す方向性の一番のものは、磐田市の文化芸術振興計画である。それにのっとった形で、今、文化事業は推進しているものと考えてほしい。これについては、平成19年度に策定され、中間年である24年度に一度見直しを行ってきた。見直しを行う際に、市民のアンケートとか市民文化会館等運営委員会などにも諮り、議論してきた。その中で、考え方についてはぶれずに、重点施策の「子供たちへの施策」「本物の鑑賞」「地域の文化活動をしやすくしたい」「街中で活かす」、この4本については、もう5か年、引き続き方針としていこうということを確認した。

(委員)

利用状況の表の中にある2,300や1,500という数字は、利用者の人数ということでよいのか。

(文化振興課長)

利用者というより集客人数と考えてもらった方がわかりやすい。2,300という数字は午前午後というように一日の間で2回公演をやった時の数を示してある。

(委員)

市民会館の利用状況の中で、1,500や500、または100、200といった数値は、最初から必要とする規模の数値なのか。それとも、人が集まらなかったという結果の数値なのか。その人数的な利用の状況を教えてほしい。

(文化振興課長)

1,500を目指して結果として1,100になったもの、あとは700、800で終わったものもある。それ以外に、リハーサルや練習で使われたものも1回と数えている。結果的には1,000名以上というのは、行政等16件、文化団体等13件、貸館14件で、全体の224件のうちの43件ということになる。それ以外は、当初から200名ほどを想定とした小規模なコンサート、また、練習だけでお客を入れずにやるといったものである。

(委員)

300名以下くらいのは件数的にはどれくらいあったか。

(文化振興課長)

250人以下で、25年度は147回である。

(委員)

われわれの団体では、チャリティ公演というものを行っている。施設の方々を呼んで、ミュージカルを観せるというものだけでも、1,500人フルで使っている。このチャリティ公演自体が全国的なキャラバンであり、磐田市にはキャパを満たす所があるということで、特別に1公演持たせてもらっている。だから今と同じような規模のものが今後もほしい。しかし、建て替えにおいては、防災の観点からも利用できるとか、バリアフリーも考えられると思う。そういうことも織り込んで、地域の文化事業だけでなく、地

域のこういったものにも活用できるよう検討してもらえたらと思う。

(委員)

施設のランニングコストのことだが、アミューズ豊田の22年度と24年度を比較した時、指定管理者制度を取り入れているわりには、その効果が出ていないのではないかと思う。施設別管理運営経費はアミューズ豊田が高くなっているけれども、この理由は何か。市民文化会館、文化振興センターと比較しても、施設の大きさ等を比べてもちょっと高いのではないか。

(文化・体育施設等整備室長)

アミューズ豊田の金額に関しては、豊田地区の体育館、野球場等、すべてを込みで指定管理に出している。アミューズ豊田に一番多くの人間がつめている関係で、委託管理者の方で按分すると今回の数値になる。それ以外の物は直営なので、人件費として直接この場所にかかった数字がはっきりと出ている。それに比べると、アミューズは若干高めになっているという状況になる。とにかく今回の数字は、人件費の按分を指定管理者の方でやっている関係で、その報告書をもとに出したものである。

(委員)

4つの施設のうちアミューズ以外は直営。直営がこのように多いというのは、最近指定管理者制度を使っている自治体が多い中で、直営を採用するには何か理由があるのか。

(文化振興課長)

福田公民館と竜洋公民館についてはホールを持っているが、やはり公民館としての利用を主にしている。結果的に3施設については、直営で実施している。

(委員)

説明を聞いていると、将来の人口減少や財政のことが、施設の充実とか見方を変えようかという意味で中心になっているが、今のようになちょっと曖昧な分け方だと実際、正しい判断ができないのではないかと思う。例えば、アミューズなんかでも人件費を割って施設にかかっている分を按分するとすると、本当の施設のランニングコスト、そういうものが見えにくいと思うが、如何か。

(文化・体育施設等整備室長)

直接かかる経費と人件費については、前回の資料に運営管理の状況をつけてあるが、直営の施設は、その中に人件費を入れていない。アミューズの方は、人件費を按分されていた関係で出ている。人件費のところの按分が、確かに多少前後する部分があるが、人件費を除いた管理運営費は実際に5,000万円以上かかるということでご承知願いたい。

(委員)

市民文化会館の利用状況を見ていると、70%を超えるという話だったが、これは一般的には高いのか。

(委員)

よいところでは80%以上あるので、そこそこという感じではある。集客数のところであまりにも切りのいい数字が並んでいるので、プラスαの資料があるといい。

(委員)

そこそこだということだが、この利用に関しては、行政の方として、積極的に売り込みやPRをしているのか。

(文化振興課長)

行政関係については、文化振興課の事業等で私どもが行っている。年間何本かの実施事業を含め、最近の本数ではなくて中身で一工夫している。事業数だけでいうと少し減ってきている傾向にあるが、その代わりに集客数を伸ばしていくというような施策を今打ち出している。文化団体などについては、吹奏楽関係が並んでいるが、最近の傾向としては、はまホールを閉鎖するという状況が報道されたことにより、浜松の方からかなりの学校の申し込みがきている。貸館については、どちらかという受け身である。しかし、毎年同じような需要はある。積極的に本数を増やすとか回数を増やすというのは、私どもがやっている事業の中での施策になる。

(委員)

そこまで積極的に取りに行かなくても、ある程度利用されているのでまあいいかなということ、そのように理解する。

(委員)

他の市、行政が持っているものと比べ、使用料というのは相場的にはどうか。

(文化振興課長)

使用料は、市内の他の公共施設と比べるとやはり市民文化会館は舞台なので、金額は高い。他の市との比較資料は持っていないが、照明は別としてホールの利用だけでも1日朝から晩まで借りると73,000円ほどになる。それとは別に音響とか照明とかの費用がかかる。

(委員)

他市の旧基準の文化施設のうち、耐震工事をやった所が5か所ということは予想以上に多いと思った。耐震工事というのはホールのような施設だとコストがかかるというのは定説的なものだから、普通建て替えを選ぶのではないか。3か所の休止というのは、廃止を見ての休止なのか、休止の3か所の意味を確認したい。最後に、推定建設費用は、今ある1,500人規模をそっくり更新した場合のことと考えてよいか。あと、アミューズの推定建設費用は、図書館も体育館も全部含めて更新した時にこれだけかかるということなのか。

(文化・体育施設等整備室長)

推計なので施設の種類ごとの㎡単価というものをもとにしている。アミューズ以外は、国の更新費用試算ソフト上は40万/㎡だが、実勢値を考慮し60万ほどで計算している。しかし、アミューズは、体育施設と併用なので、体育施設としての単価36万を基に53万にして計算している。実際、アミューズは建設時に37億円ほどかかっている。あくまでも試算で、積み上げではないので、参考程度にと考えていただきたい。

(文化振興課長)

耐震補強工事をやったところは5か所で、福田公民館、藤枝の市民会館、御前崎市民会館、牧之原の榛原文化センター、伊豆市の修善寺総合会館である。どれもキャパ的には、700~800席くらいの施設。ほぼ同規模くらいのところが耐震工事を実施したということになる。閉館を決めたのは、湖西の市民会館と島田の市民会館、浜松の教育文化会館(はまホール)。湖西の市民会館と島田の市民会館は、耐震診断をやった結果、耐震度が非常に劣るという結果をとらえて、休館、閉館という流れに一気にもっていった。浜

松のはまホールについては、当初、市の統廃合の方針として閉館というものを決めていた。いくつかの団体からの要望は受けたが、他の文化施設を利用するという考え方の中で、閉館を決定したと聞いている。

(委員)

後段の質問のところで、規模が小さい場合は、耐震工事をやった方がコスト的には見合う、ある程度規模が大きくなると建て替えの方が見合うという結論を持っているのか。それと前段の質問で、単価はわかったが、基本的に、現状の面積に単価をかけて試算したということによろしいか。

(文化・体育施設等整備室長)

現在の面積のまま、更新した場合のことである。市民文化会館については、文化振興センターも含んだ面積で建て直すとこれくらいかかるという試算である。ただし、音響とか舞台設備は、非常に高価なものになるので、 $+ \alpha$ とした。他の施設も、高価な設備を入れれば $+ \alpha$ になる。

(市民部長)

耐震をやったところは、大規模な施設でないところがほとんど。福田もそうだったが、耐震をやるにしても建て替えるにしても、大規模なところと違って比較的安価だということもあって、今回のような議論も行わずに、耐震を行っていったというところが比較的多いのではないかと想定される。市民文化会館については、耐震大規模修繕だけでもおそらくかなりの費用はかかってくると思う。しかも、地盤沈下もあるので、それだけでは済まない。

そうすると耐震に持っていくにも、新しいものを建てるのにも資金的にはそんなに大きな変わりはないのではないかと感じる。いずれにしても大きな金額ということになるので、こういう形で議論をしていくということになった。こうしてデータを示していく中で議論していただきたい。

(委員)

前回の時に出た、新駅ができるということでその近くに文化会館をつくったらどうかという意見はとても良いものだと思う。できればできるだけ多くの土地を確保して、博物館だとか今磐田にないようなものをだんだんに建設していく。広い駐車場も確保していったらどうか。

(秘書政策課長)

新駅に関連して、今、新貝の区画整理事業を行っている。駅前には広くはないが市の土地もある。ただ、この土地の面積だと市民文化会館という規模の建物は建てられないので、土地の購入ということも考えないといけない。駅ができれば土地の値段も高くなると心配される。場所の問題は、文化施設のあり方検討委員会で、建設するという結論が出たら、来年度以降に考えていく。まずは場所ありきではなくて、文化施設が必要かどうか、建て替えるか耐震か、将来にわたって4つのホールをどうするのが最善かについて議論いただければと思う。

(委員)

耐震にしても建て替えにしても多額のお金はかかるが、新駅をたてるにあたって市の負担というのはどれくらいあるのか。

(秘書政策課長)

新駅に併設される自由通路については道路という扱いになり、2分の1は交付金として国からいただき、残りは市の借金であるとか他の財源を使って整備する。駅舎は、完成後にJRに寄付することになる。国の交付金というのはないが県が補助金を出している場合もあるので、県の方にはこれからお願いするような形で考えている。事業費は新駅だけで49億円と試算しているので、莫大な金額はかかると認識はしている。

(委員)

今回の委員会の中で磐田市の公共施設と財政の状況を説明された。いくら文化施設のことを考えようとしても、そんなことを言ってもお金がないという議論になってしまう。今日は何のためにこの資料を出したのか教えてほしい。この委員会は、市の財政状況等いろいろ課題はあるけれども、磐田市が目指す文化の施策というものに照らし合わせ、文化施設をどうしていくか議論していく委員会なのではないのかと思っている。どこへ建てるということについては別の問題だと思う。

(企画部長)

市の総合計画、文化振興計画の中では、文化施設の整備・充実を図るとしている。市民文化会館についても28年度までの総合計画の中で、整備計画について検討するとともに文化施設の計画的な改修修繕をすると謳っている。白書では、市の公共施設の343施設を示してあるが、現状はこれから学校施設の関係の費用が非常に増えてくるということで、26年度に小中一貫校の再編という形で検討を進めている。そういった中で文化施設も現在4か所あるが、現実的にこの4か所を今後どうするかということである。すでに3か所については、耐震対応済みである。市民文化会館は、現在は耐震工事も行っていない。この4つの施設がこれから本当に必要かどうかということもあって、あえてこの公共施設の状況を説明させてもらった。財政の関係については、平成30年度までの歳入歳出の規模を示してあり、この中には新駅建設も含んでいる。これに加えて財政調整基金(貯金)もあるので、現段階では、文化施設についても何らかの対応はできると考えている。公共施設白書では、公共施設の量と質の見直しをしていき、公共施設の効果的・効率的な管理運営を行っていくと結んでいる。施設の長寿命化、民間活力を利用した公共施設の質の改革、そういった点から、皆さんに意見を取りまとめてもらい、その結果を踏まえて、来年度に向けて、考え方の原型としていきたいと考えている。場所の問題については、そういう方向になれば、来年度に例えば文化施設の建設検討委員会といったものをつくって具体的に検討していければと思っている。文化振興上の位置づけとか総合計画の位置づけでいくと、単純に建て替えというようになっていくので、現状を認識していただきたいということで、あえて逆のような説明をしたという経過もある。

(委員)

5市町村が合併したわけだから、合併以降、体育施設も文化施設も、かける5ある。300有余の公共施設を将来そのまま持続していくとなると、多額のランニングコスト等がかかって、財政はやり切れない。施設を整理して、場合によっては、かける5ではなくて、かける3でもかける2でもいいじゃないかというようなコンセンサスを市民とどう取り合っていくかということが必要。だから、我々の委員会の議論はそういう台所事情はあるけれども、もう少し台所事情を外しておいて、文化の関わる視点でもって、磐

田市のホールをどうしていくかという観点で考えてくれというように受け止める。二つ目は、行政サイドはどう考えているかということ。行政は、この委員会で意見をもらい、それを参考にして、次回か次々回くらいには方針をこの委員会に出そうとしているということか。

(企画部長)

一点目は、おっしゃる通りで、合併して施設は単純に言うと5倍になった。でも予算規模は実は2倍にしかになっていない。そういう中でこれから公共施設をどうしていくか考えた場合には、やはり再編とか統合がどうしても必要になってくる。そうした中で、この文化施設についても、これをどうしていくかということを経営という視点で考えてもらえればと思う。それから二点目の行政の考え方だが、これは皆さんにご意見を出していただいた中で、次回か次々回には、考え方を出していきたいと考えている。

(委員)

厳しいデータが出たのは、福田公民館にしても、竜洋公民館にしても、アミューズにしても次の段階に来たら建て直しができないかもしれないと解釈した。人口もあと25年すれば3万人減るという状況の下で、今回造る文化施設というのは、どうあるべきかということを経営に入れてながら議論していただきたいということだと受け止めた。また、文化施策というのは舞台芸術の世界ばかりではない。文化ホール中心の議論だと、舞台芸術や実演芸術の話にどうしても行ってしまうので、そうではなく書画や写真やいろいろな文化があるわけで、もっと言えば歴史文化もある。文化ホールだけではなくて、文化振興センターがどうあるべきかという議論の中で、実演芸術だけではなくて、展示するようなタイプについてどうしていくかについても議論を突っ込んでいかなければいけないと自分では思っている。財政の問題については、合併特例債を使える期間が平成32年まで延長できると聞いたので、今回のこの文化施設をこの中に織り込むなら、合併特例債の期間延長をうまく使えばやっていけるのではないかなという思いもある。

(委員)

西部地区でこのような規模のホールがあるのは、浜松と磐田だけだということ、非常に貴重なものだと思っている。磐田は、このホールがあることによって西部地区でのステータス、そういうものを作り上げていければいいのかなと思う。西部地区全体でのある程度のステータスが獲得できるような施設を考えることも必要かなと思う。それから、磐田市として、1500人規模のホールが一つあって、あと中規模のホールがどれくらいあればいいのか、それから併設であればいいのかそれとも合併した市町村に点在していた方がいいのか。そうしたことも少し考えておく必要があるのではないかなと思う。それで、財政事情が許すのであれば、点在させるということも街づくりの視点から必要なことかなと思う。磐田市としての特色を出していくということも検討したらどうかなと思っている。

(委員)

資料にあったが、文化会館は耐震度が低いところにおいては、喫緊の課題ではないかなと思う。まずはあそこをどうするのか。あそこでやっていることを他の施設も使ってやっていった方がいいという意見とか、あそこに建て替えるとか、そのところをまず話し合っていかなければいけないのではないかと強く感じるし、財政のことも考え

ると、まずはあそこにしか手をかけられないということを使った。

(委員)

図書館を TSUTAYA に運営を委託してしまうとか、ネーミングライツとかも視野に入れていくとか、もっと民間と融合するようなやり方を考えたり、もっと自由な発想で発言できるような会議にした方がいいのではないかなと思う。文化というのは、平成 19 年に作った市の総合計画の中では、「生活文化」を言うということが決められているようだけれども、この流れで話を進めていった方が、話はまとまるのではないかなと思った。

(委員)

合併後の状況の中で同じようなものがたくさんあるなら、これをまずどうやって一本化するかということである。今の利用状況の中で、本当に必要とされているのか、活用というのはこれでいいのかと思う。私は、いいものをつくって磐田市だけでなく、浜松を含めて県西部の中で利用できるように考えたら、利用回数が増えるだろうと思う。それだけ魅力的なものをつくる必要があるだろうと考える。一本化していいものを作っていけばだんだんそこへ人が集まってくる。

(委員)

ハードの部分である建物をどうするかという面から入っていかないと議論が進まないような気がする。建て替えをするということを前提の上に、その中でどのようなものやっっていくか。将来的に集約するとなるとここはたくさんのお金をかけ、それなりに将来的にも対応できるようなものを造っていくというタイミングだろうなと思っている。運営の方法として民間という話も出たけれど、文化協会そのものが NPO をとったりしてもっとアクティブになったらどうかと思う。単にこういう施設がほしいと言うだけではなくて、自分たちができた施設をどのように運営していくかということを考えるようなアクティブな団体になったらいいと思う。他の市では休館しているところがあると聞いたが、建て替えをするという計画がある程度見えたら、市民会館は閉館するべきだと思う。

(委員)

今日の資料を見て、磐田市の文化会館のやらなければいけないこと、やっていないことがわかった。まず、稼働率が 70% くらいというのは、そこそこだが、よく見ると貸館のものや、まる貸ししているラインナップばかり。これから環境を創るとか文化を広げるという中には、貸公演を何本か削って、500 万でも 300 万でもいいから、それを小さく分割し、市民の方や文化団体の方と一緒にあって、こつこつと年間通して、プログラムを組んでいくといい。そうすれば、非日常的ににぎわっているような、使いやすいというイメージが生まれて、どんどん人が来るようになる。やることは何かというと、ハードとのセットだが、まずは、1,500 本当に必要なのかと思う。

(委員)

静岡の西部地域で浜松のはまホールが 1,500。当時の磐田の勢いで、浜松に負けたくないっていうのがどこかにあったような気がする。それで浜松と並ぶ 1,500 にしたという、まさしく市のプライドをかけた 1,500 だったということで、当時 1,500 が妥当かどうかという議論はなかったのではないかな。



(委員)

20万人を超えているところが1,500のホールを持っていても、1,500を埋めるのに本当に苦労している。20万切るような人口の市では1,000くらいの規模がちょうどいいのだろうと思う。舞台芸術も、展示もそれぞれが、直営管理にしても指定管理にしても職員自らが企画をしたり、文化団体と一緒にやるといふことを考えると客席数などのハードの面も出てくる。先に1,500がどうしても必要となってしまうと、それを埋めるための貸公演ばかりになってしまう。創造的なプログラムをラインナップする方法から、どういったハードが実現できるかというのを考えていくといいのではないかと思う。

(委員)

創造的なプログラムとは、具体的にはどういうものか。

(委員)

創造するとか、市民と一緒に企画を立てるとなると、この企画には予算がどれくらいかかるのか、もし市民の人たちがやってくれるのであれば100万円を中心とする人たちに提供するので、100万円で朗読コンサートをやったらどうかとか、どんな本にしようとかどんな役者を呼んでいこうかという1から立ち上げるようなものが小さくてもいいからいくつか出た方がもっと活性化するのではないかと思う。そういう意味での創造。企画を1から立ち上げてスタッフを集めるところからやるということである。そういう時に、プロデューサーや技術屋が必要だという方もいるが、それが難しい場合、他県の直営のホールなどは市民や大学生でつくった運営委員会で小さくてもいいからみんなで創るといふことをやっている。あと、1公演部分はどこか削って、計画のできるようなプロの方に来ていただいて市民の方や行政の方と一緒にやっていくというケースもある。

(市民部長)

磐田市も、以前は、プロダクションとのやり取りばかりの事業だった。ところが、貸公演ばかりではだめだということで、2年前から、職員提案事業、自主事業、それから職員が周囲の人たちと話し合っ立ち上げていく事業というのをやっている。手間がものすごいにかかっている結果、やっと磐田の文化振興というのが周りから見ると人並みになったかなというようなイメージでいる。今度は地域に出て行って、地域とどういう公演がいいのかということをお話し合っいかなければいけないといふところにあるかなと思っっている。

(委員)

2回公演、3回公演で2,300とかはわかるが、単体でやった時に、1100あれば充分とか、1,200あればニーズにこたえられるとかは、この資料だと見えない。その辺はどうか。

(市民部長)

次回、そのあたりの見える数字を出してみたい。1,500をいっぱいにするといふことは、民間のプロデューサーから受けたものであったりと割と限られている。もう少し見えるような資料をつくってみたい。

(委員)

キャパの問題とプログラムの問題は別だと思っっているものだから、キャパはキャパで

ある程度必要だろうと思う。それをどう活用するかというのは、別のものだと思う。それが 1,500 でないといけないということではないが、1,000 以下ということはずまいと思うし、1,200~1,300 だったらいいと思う。

(委員)

舞台をやっている側から言うと、キャパとプログラムの問題は関連する。舞台芸術の場合に、集客者数というのは、利用状況を示す以外にも舞台芸術の質を上げることに役割を果たしている。空席があると観客の集中力が低下するので、舞台の結果が悪かったということになり、それが、さらに次の集客を低下させることになる。大体こういうプログラムを組んで集客すると、1,200 くらいのキャパシティで造ったらいいのではないかと思っている。そうでない場合は、1,000 でもいいし、複合施設でいくつかあってもいいかなと思う。

(委員)

舞台芸術の話になっているが、PTA の全国大会とか、そういう大会があった時には、何人入るホールがあるから、この街でも開催できるということもある。今までに子供会や連合会のどんな大会があったのか、その辺も調べておいていただきたい。

(委員)

今、市民会館が、演劇の関係で人気があるのは、裏に楽屋がきちんとしているということもある。そのように施設をよくすることによって、外からも来てもらえる、そんなものを造ってもらいたい。私は多少大きくても、よりよい施設にして、よそから、例えば浜松から掛川から、袋井からきてもらえる、利用してもらえるような施設を造るのもいいなと思っている。

(企画部長)

今日ははじめに、財政状況とか、公共施設の状況を説明させてもらった。先程特例債の話があったが、合併特例債というのは、合併してからある年度までは、有利な起債である。簡単に言うと、例えば、50 億円の事業を起こす場合には、2 億 5 千万円の一般財源があればいいということ。それが、平成 32 年度まで最大伸ばすことができる。平成 32 年度が一つの目安かなというように考えている。それまでにこうした文化施設についても建て替えることは可能だし、これを超えた段階ではなかなか厳しい状況が出てくるということは伝えておきたい。

(委員)

やはり今 1500 のホールがあることは、磐田市民にとって優位意識はあるから、それがなくなってしまうということに関しては、抵抗がある。でも実際使用しているかという、していないという意見が多く、全然規模も違うが、東京ドームのような野球もするし、コンサートなんかもできるという多目的に使えるような施設ができたらいいという意見もある。また、ある施設へオーケストラの定期演奏会を聞きに行った時に、やはりそれ用のホールではなかったのが残念だなという感想を持った。やはりそれなりの内容に合ういい施設を造ってほしい。